

防衛大臣・木原稔様

オスプレイの日米共同訓練レゾリュート・ドラゴンへの参加の中止と、 米軍・自衛隊のオスプレイの飛行中止と撤去を求める

2024年6月28日 日本平和委員会

陸上自衛隊と米海兵隊は国内最大規模の共同訓練「レゾリュート・ドラゴン」を岩国基地（山口県）と熊本、大分、佐賀、沖縄の米軍・自衛隊施設を使って行うことを、発表した。自衛隊から約5700人、米軍から約3200人が参加する過去最大規模の訓練となる。

これは、海兵隊の新作戦構想 EABO（遠征前方基地作戦）を担うために昨年11月に新編された第12海兵沿岸連隊や、沖縄・勝連分屯地に今年3月に発足した敵地攻撃部隊（地对艦ミサイル連隊）も初めて参加。EABO 作戦構想を踏まえた連携要領を図るための訓練である。EABO は、「島を守る」のではなく、点在した島々を臨時的作戦拠点として米軍が対中国攻撃をくり広げる作戦構想であり、「島々を米軍の攻撃拠点とし、島々を戦場とする」作戦に他ならない。「日本を守る」とは無縁の、アメリカの対中軍事戦略に自衛隊が加担し、南西諸島と日本を戦場にするこのような訓練は、中止すべきである。

しかも、この訓練には、米海兵隊普天間基地から MV22 オスプレイ 6機と陸上自衛隊木更津基地から V22 オスプレイ 2機が参加し、激しい訓練を展開する予定となっている。

オスプレイをめぐっては、昨年11月29日に屋久島沖で横田基地配備の CV22 オスプレイが墜落し、8人の乗員が死亡。3カ月にわたって全世界で全機種の飛行停止措置が執られてきたが、今年3月7日に米軍がこの措置を解除。これに日本政府も無条件に追随し、3月14日に沖縄・普天間基地の MV22 オスプレイの飛行再開が強行されたのを皮切りに、千葉・木更津基地への V オスプレイ 3機追加配備も強行され、さらに、墜落した CV22 オスプレイも、7月2日、横田基地周辺自治体に無通告で飛行再開を強行。訓練がなし崩しに拡大されてきている。今度の「レゾリュート・ドラゴン」への8機ものオスプレイの参加は、飛行再開後最大規模の演習参加となるものである。

しかし、この飛行再開は、不具合を起こした部品名さえも明らかにされず、事故原因や事故防止対策についての具体的説明も一切ないまま強行された極めて無責任なものであり、断じて許されるものではない。このような飛行再開は中止すべきであり、「レゾリュート・ドラゴン」への米軍・自衛隊のオスプレイ参加はただちに中止すべきである。

しかも、米議会に提案されている「2025 会計年度国防権限法案」には、「オスプレイに影響を及ぼしている進行中の重大な欠陥」のために、「運用は、適切な迂回飛行場から 30 分以内に止まる飛行及び作戦任務に限定されている」と明記されており、6月3日に行った日本平和委員会の対政府交渉で、防衛省側はこうした記載があることを承知していると認めた。これは、オスプレイの安全性が確認できないために制限飛行を行っているという、重大な事態を示すものである。ところが防衛省側は、こうした措置が執られているかどうかは、「運用保全上の理由から、対外的に明らかにすることはできない」との不当な態度に終始した。

しかし、その後、6月12日の米議会下院公聴会で、米海軍航空システム司令部のカール・チェビ司令官は、オスプレイについて、「目的地の飛行場に着陸するために必要な飛行時間を制限するミッション計画」が行われていること。「現在、V22 部隊は、…作戦任務能力を制限する制限された範囲内での飛行が許可されている」こと。現在許可されているのは「制限飛行」であり、「完全な無制限飛行に戻るための基準を確立」するまで、「現在の飛行制限は継続される」こと。そして、

「完全なミッション能力への復帰は、2025 年半ばまでには起こらないと予想される」ことを明言した。つまり、現在、オスプレイの安全性は完全には確認されておらず、少なくとも来年半ばまでは制限飛行が続くというのである。

また、チェビ司令官らは、ハード・クラッチ・エンゲージメント (HCE) に関わって、「リスクを除去できたわけではない。再設計されたクラッチを持つまではリスクを除去したことにはならないだろう、現在は試験中」「テストは今後数カ月以内に開始される予定で、2025 年半ばには新しいクラッチが完成すると予想している」とも証言している。クラッチの不具合で「機体の制御が完全に失われる」HCE 発生の危険も除去されていないのである。

オスプレイの安全性に関する責任者が米議会下院公聴会で、その安全性が完全には確認されていないことを明確に認める証言をするなかで、日本政府だけがその実態を認めず、ただひたすら「安全性は証明できた」と強弁し、飛行再開を強行し、大規模な日米共同訓練にオスプレイ 8 機を投入しようとする姿は、常軌を逸した態度と言わざるを得ない。

以上の点から、私たちは、次のことを強く求めるものである。

- 1、「日本防衛」とは無縁な、沖縄・南西諸島の戦場化を想定した日米共同訓練「レゾリュート・ドラゴン」を中止すること
- 2、同訓練への米軍・自衛隊のオスプレイの参加を中止すること
- 3、米海軍航空システム司令部チェビ司令官の米下院公聴会での証言内容を確認し、報告すること。オスプレイに制限飛行がかけられている事実を認め、住民の安全を確保する立場から、それが日本でも適用されているのかを明らかにすること。
- 4、HCEに関するチェビ司令官の証言を確認し、この点でも安全性が確認されていないことを認めること。
- 5、チェビ司令官らが明言している、2025 年半ばまでの飛行制限の継続、新しい設計のクラッチの 2025 年半ばの完成予想との証言を踏まえ、少なくともそれらの実行が確認されるまでは、飛行中止すること。
- 6、オートローテーション機能を持たず、HCE はじめ多数の欠陥を有し、屋久島沖墜落事故の原因の根本的対策も解明されていない「空飛ぶ棺桶」オスプレイは、全面的に飛行中止し、撤去すること。横田基地への CV22 オスプレイの追加配備や佐賀空港のオスプレイ基地建設を中止すること。